

松河戸地区の沿革

9 神社仏閣

(1) 白山神社

創建は明らかではありませんが、白山神社再建の棟札(むねふだ)に明応3年(1494年)とあります。

祭神は菊理姫の命、応神天皇、木花咲耶姫命、素戔鳴尊の四柱神です。

大正元年に国による1村1社合祀令により、松河戸の9社の祠を合祀又は境内社とし、白山神社が松河戸の村社となり、境内にはそれぞれの祠が安置されています。

《道下島の津島神社(天王宮)・浅間社、中小路島の市岐島社(弁財天)、八ツ家島の八幡社(同境内の山神社、小野社)・辻天王社、川原島の愛宕社・斎宮社、中島の熊野社(同境内の神明社、宇賀社)を門田島の村社白山神社に合祀した。》

白山神社の年間祭事(主なもの)

| 開催月日 | 行事名 | 内容 | 目的 |
|----------------------|------------------|---------------|---|
| 7月 祇園祭りの1週間前の日曜日 | 天王始め | うんか祭 虫送り祭り | 町内厄除け祭り (稲の害虫駆除の虫送り) |
| 7月 小学校の夏休み初めの日曜日 | 津島神社例大祭 (祇園祭) | 子供獅子祭り | 健康を願う夏のお祭り、 子供の成長 |
| 7月 祇園祭りの1週間後の日曜日 | 提灯山 | 提灯祭り | 健康を願う夏のお祭り |
| 10月 体育の日 | 白山神社例大祭 (豊年祭) | 秋祭り (もち投げ) | 収穫、健康、安全など神様のご加護に感謝し祝う祭り。 (収穫祭、収穫前に少しの稲穂をお供えして感謝を祝う祭り) |
| 11月 勤労感謝の日(11/23) | 新嘗祭 (にいなめさい) | にいなめの祭り | 町内安全祈願 (新穀を神にささげて収穫を感謝し、きたるべき年の豊穰を祈る祭り) |
| 12月31日~1月1日 | 初詣 | 初詣接待 | 新年を迎え祝う |
| 1月 成人の日 | 左義長 (火祭り) | どんど焼き | 供物を焼き上げ新年の祈願をささげる |
| 3月中旬 | 祈年祭 (きねんさい) | としごいの祭り | 町内安全祈願 (年の初め(立春)に、豊年満作を祈念する祭り) |

白山神社関連年表

| 時代 | 年号（西暦） | こと が ら | 備 考 |
|-----|-------------------|--------------------------------------|--|
| | 明応以前（1400年代） | 創建 | |
| | 明応3年（1494） | 再建 | 現在棟札は所在不明 （「春日井市の神社」S58） |
| | 慶長年間（1596 - 1610） | 徇行記に白山社建立の記 | |
| | 寛文年間（1661 - 1672） | | |
| | 享保2年（1717） | 白山 - 王子神社修復の棟札 宝暦2（1752）張州府志に6祠掲載 | 宝暦（1751 ~ 1764） 張州府志：尾張藩官（公）文（1752） |
| | 文化年間（1804 - 1817） | 尾張徇行記に6祠掲載 | 徇行記：文化年間 |
| | 天保12年（1840） | 松河戸村絵図に9祠掲載 現在地に「白山宮」の名がある | 下図参照 |
| 明 治 | 明治5年（1872） | 村社に列せられる | |
| | 明治40年（1907） | 供進指定される | 供進：供進史ができて格が上がる |
| 大 正 | 大正元年（1912） | 村内の各祠を合祀又は境内社とする | 村中：八幡社・愛宕社 熊野神社（神明社・宇賀社） |
| 昭 和 | 昭和11年（1936） | 本殿建立（旧社） | 河戸：浅間社・津島神社 昌福寺：御嶽社 |
| 平 成 | 平成2年（1990） | 新社殿再建（現在） | 段下：斎宮社（三狐神） 河戸：市岐鳥社 |
| | 平成5年～（1993～） | 区画整理に伴い各祠を境内に移す | 元八幡社：山神社・小野社の境内社（旧社誌沿革） |
| | 平成23年（2011） | 神社境界確定・整備 | |

白山神社に合祀又は境内社にされる前の場所



▲熊野社



松河戸白山神社祭神の紹介

主祭神四柱神

◎菊理姫の命（くくりひめのみこと）

石川県白山比咩の主祭神

御神徳・縁結びの神様

◎応神天皇（おうじんてんのう）

八幡神社の主祭神

御神徳・必勝の神、頭脳の神

◎木花咲耶姫命（このはなさくやひめのみこと）

富士浅間神社の祭神

御神徳・水の神、守護神、安産の神、子育ての神

◎素戔嗚尊（すさのおうのみこと）

国土経営を行う英雄人

御神徳・人々に幸福を授ける神、武運の神

境内社

○神明社（しんめいしや）

御神徳・何でも聞き入れて頂ける神

○市岐島社（いちきしましや）

御神徳・子守りの神、水の神、芸能の神

○山上社（やまがみしや）

御神徳・金運、子宝の神

○竈神社（かまどかみしや）

御神徳・防火、その家の富と命の守護神

○小野社（おのしや）

御神徳・書、勉学の向上

○熊野社（くまのしや）

御神徳・再生の神、人の縁、願いを結ぶ神

○津島社（つしましや）

御神徳・疫病、厄難災除けの神

○伊勢大神宮斎王（いつきみのみやしやさいぐう）

御神徳・穀物の神、福の神

○宇賀社（うがしや）

御神徳・穀物の神、福の神

平成二九年九月吉日

松河戸白山神社 宮司

総代長

資料

松河戸白山神社氏子会

松河戸誌研究会

写真と図表で見る松河戸 松河戸誌研究会 平成 28 年発行から

春日井市史 地区誌編

(2) 観音寺

巨嶽山観音寺といい、名古屋市守山区大永寺曹洞宗大永寺の末寺である。

寺伝によれば室町時代までは真言宗の寺であった。

天正年間に大永寺四世雲山在道大和尚(長久手の合戦の時、幾多の戦死者を葬った高德の増)が曹洞宗に改宗し、草創開山となり、現在の本尊「十一面観世音菩薩」を祀られたと思われる。

その後、宝暦年間(1740-1764)大永寺十七世靈臺和尚が法地に昇格させ法地再興開山となった。

天明-寛政年間に本堂の再建、梵鐘の鑄造、天保・改化・嘉永年間に鐘楼堂新築、昭和4年に小野道風公の立像及び弁財天の立像建立、十五の森伝説に関する十五薬師如来像が衆寮堂に祭祀されている。

また、観音寺の門前には、童女と童女の母の霊を慰めるために昭和44年5月、石の親子地藏尊が地元の有志によって建立された。

現在の本堂は平成2年に再建された。

観音寺の年間行事(主なもの)

| 開催月日 | 行事名 | 内容 |
|----------|------------------|--|
| 4月8日 | 降誕花まつり (ごうたん) | お釈迦さまの誕生を祝う祭り(花まつり) (旧暦4月8日)(新暦5月3日) |
| 8月10日 | 大施食会 | 盂蘭盆(うらぼん)の始めに、先祖の供養や餓鬼の供養など全ての仏様のために盛大に心を込めて供養する。曹洞宗では「施餓鬼」とは言わず「施食会」とも呼ぶ。 |
| 8月11~14日 | 棚経 | 盂蘭盆(うらぼん) 祖先の冥福を祈る仏事。迎え火をたいて死者の霊を迎え、精霊棚を作って供物をそなえ、僧侶による棚経(僧侶が檀家に赴き、亡き人の霊を祀った精霊棚の前で読経し冥福を祈る。)をあげ、墓参りなどをし、精霊(先祖)を供養し火をたいて送る。 |
| 8月15日 | 精霊供養 | |
| 9月23日頃 | 秋彼岸供養 | 彼岸(あの世)に通じやすい期間に、私たちがあの世のご先祖様に会いに行き供養する。秋分の日(9月23日頃)の前後の7日間 |
| 11月8日 | 十五薬師供養 | 十五の森伝説に関する十五薬師如来像が衆寮堂に祭祀されており供養する。 |
| 12月16日 | 秋葉祈祷会 | 秋葉山の祈祷 |
| 12月31日 | 除夜の鐘 | 鐘をついて人の心にある百八つの煩惱を祓う。 |
| 1月3日 | 祈年大般若祈祷会 | お釈迦さまが説かれたお経『大般若経』六百巻を転読することによって、『般若経』の空の教えを体得し、すべての苦厄を消しきって、内外の怨敵(おんてき)を退散させ、五穀豊穰や国家安寧を祈念し人びとを幸福な生活にみちびいてゆくことを目的とした大法要です。 |
| 3月20日頃 | 春彼岸供養 | 彼岸(あの世)に通じやすい期間に、私たちがあの世のご先祖様に会いに行き供養する。春分の日(3月20日頃)前後の7日間 |

資料

観音寺

写真と図表で見る松河戸 松河戸誌研究会 平成28年発行から

(3) 昌福寺

徳雲山昌福寺といい、名古屋市守山区大永寺曹洞宗大永寺の末寺である。

文禄元年(1592)徳雲という僧が開基した。最初は松河戸村字中小路の弁財天の境内に存在した。

慶長年間(1684-1688)に大永寺十二世特州奇大和尚の開創によって大永寺末寺となった。(それ以前は同村観音寺の末寺であった。)

この頃(江戸期)には、松河戸村内にある7社(白山社・天王社など、八幡社は除く)の社僧を務めていたので、村の祭りに行われた若者のお日待ちは昌福寺が宿となった。

安政年間(1859-1864)に法地開山となり、松河屋庄八氏の寄贈により稲荷堂が建立された。堂内には子安地藏尊も祀られている。

現在の本堂及び開山位牌堂・観音堂は平成20年に再建された。

昌福寺の年間行事(主なもの)

| 開催月日 | 行事名 | 内容 |
|------------|----------------------------|--|
| 4月中旬 | 弘法さま | 弘法大師(空海)が入定(命日)になられた日に、報恩謝徳の意を込めて「正御影供(しょうみえく)」という弘法大師の御影を祀って供養する行事。お菓子等が配られる。 (旧暦3月21日、新暦4月18日) |
| 5月第3日曜日 | 釈尊降誕会(灌仏会) こうたんえ(かんぶつえ) | お釈迦さまの誕生を祝う祭り(花まつり) (旧暦4月8日)(新暦5月3日) |
| 8月11日 | 施餓鬼会 せがきえ | 盂蘭盆(うらぼん)の始めに、先祖の供養や餓鬼の供養など全ての仏様のために盛大に心を込めて供養する。 |
| 8月12~14日 | 棚経 | 盂蘭盆(うらぼん) 祖先の冥福を祈る仏事。迎え火をたいて死者の霊を迎え、精霊棚を作って供物をして、僧による棚経(僧侶が檀家に赴き、霊を祀った精霊棚の前で読経し冥福を祈る。)をあげ、墓参りなどをし、精霊(先祖)を供養し火をたいて送る。 |
| 8月15日 | 精霊送り | |
| 10月下旬(日曜日) | 白寿観音大法要・祈願会 | 昌福寺に安置されている白寿観音の法要、祈願会 |
| 11月第4日曜日 | 本尊薬師如来会 | 本尊であるところの薬師如来の法要祈祷 (旧10月12日)(新11月29日) |
| 1月1日 | 新年初参り | その一年の幸せを祈願する。 |
| 1月上旬 | 白寿観音初供養会 祈年大般若祈祷会 | 白寿観音の今年の初供養(今年一年間の健康を祈願する) 『大般若経』六百巻を転読する大法要(今年一年間の幸福を祈願する) |
| 3月上旬 | 松川稲荷初午大祭 | 2月の初の午の日、京都の伏見稲荷大社の神が降りた日。 昌福寺では1980年から始まった。 |
| 3月第3日曜日 | 釈尊涅槃会 (ねはんえ) | お釈迦さまが亡くなられた日 (旧2月15日)(新3月21日) お釈迦さまの最期の様子を描いた「涅槃図」をかけて、そのご遺徳をしのぶ法要が行われます。 |
| 3月20日頃 | 彼岸供養会 | 彼岸(あの世)に通じやすい期間に、私たちがあの世のご先祖様に会いに行き供養する。春分の日(3月20日頃)前後の7日間 |

| 賛 会 | 目 的 | 内 容 |
|------------|-----------|--|
| 昌福寺白寿観音奉賛会 | 白寿観音の信仰普及 | 昌福寺に安置されている白寿観音の供養を毎月第3日曜日に実施している。 |
| 松川稲荷協賛会 | 松川稲荷の信仰普及 | 昌福寺に安置されている松川稲荷の大祭を実施。 (2月の初の午の日、京都の伏見稲荷大社の神が降りた日)松川稲荷初午大祭は1980年から実施。 |

資料

昌福寺

写真と図表で見る松河戸 松河戸誌研究会 平成28年発行から

(4) 佛法堂

佛法堂は、名古屋市熱田区旗屋にある如来経の青大悲寺(御本元)の全国最初の末庵として明治4年に現地に創建された。庵主は御本元より派遣されている。昭和の中頃までは厳しい戒律と修業が行われていた。現在では週1回程度境内の整理をしている。

如来経は、教祖喜之に享和2年(1802年)宇宙を創造した如来様が死者として地上に遣わした金比羅大権現が乗り移り、死に至る文政9年(1826年)まで他力に徹し、我が身を如来に預け、三世を見通した上、現世・後世の道理、成仏の要諦を説いた教派である。以前は、曹洞宗法持寺の説教所鐵地藏堂などといったが、昭和37年から独立した宗教法人である。

資料

写真と図表で見る松河戸 松河戸誌研究会 平成28年発行から

春日井市史 地区誌編